

茶屋町 防災新聞

干拓から読み取る

昭和48年8月24日

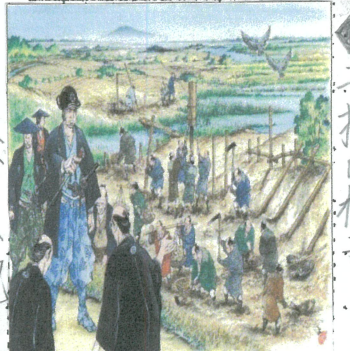
林 惟続

干拓の歴史

昔、島に囲まれた茶屋町は、大の海と呼ばれ潮流の激しい海として知られていました。江戸時代に入ると早島沖新田、(今でいう早島を中心とした領地)を三〇〇〇石で修め、戸川安広、この二人が徳川幕府の命を受け百性三〇〇人といふに干拓を始め四年という長い年月をかけ完成したので、完成後は境川(用水)を作り、境川より南は帯江新田村となる。その後二度合併し、倉敷市茶屋町なり、今にいたる。

干拓の手順

- 1 汐止めの土手造り。
- 2 川(用水)造り。
- 3 水門をしめ、水をなくす。
- 4 道のかたをつけ、土を入れた形を整える。
- 5 土を入れた形を整える。



干拓の様子

南海トラフがおきたら

まず過去の事例を見てみよう。昭和21年(1946)12月21日の午前4時19分に、昭和南海地震がおき、茶屋町では震度4弱を記録した。この地震で茶屋町をふくむ干拓地では、大規模な液状化が発生し、多くの被災者がおきた。この地震で茶屋町をふくむ干拓地では、大規模な液状化が発生し、多くの被災者がおきた。

干拓したところ、(親子の茶屋町という本にも書いてある)と海水がわき、塩害に強い、草、緑の栽培を始め、あの磯崎民衆の錦兜の輸出などで栄えた。それから三十七年かたった。海水はもうわいてきません。しかし海水は地下深くにまだうまっています。そして二〇〇三〇年の内には、八〇%の確率でおこるとされる南海トラフ。線状降



茶屋町を、液状化のリスクが極めて高い。これは、一部は低いところから、この結果から道を覚えず、避難所へ行く時にすばやく避難できるだろうか。

線状降水帯や大雨がおきたら

浸水のハザードマップで見る。



茶屋町小学校	0.5m	未満
茶屋町東幼稚園	0.5m	未満
茶屋町公民館	0.5m	未満
茶屋町西幼稚園	0.5m	未満
茶屋町支所	0.5m	未満
公民館	0.5m	未満
東幼稚園	0.5m	未満
西幼稚園	0.5m	未満
東陽中学校	0.5m	未満

水門は、なぜある？ 誰が管理している？

防災での役割とは？ 用水路の水が大雨で一番あふれやすい。川に用水路の水を流し、あふれるのを防いでいる。

誰が管理している？ 倉敷土木委員の方や農家の代表の方々です。

一口メモ 標高と海抜 標高は東京湾の平均海面を0mを基準面とし、そこからの高さを標高という。

海抜は近隣の海面(瀬戸内海)からの高さ。

編集後記

新聞を書いて分かったこと ぼくたちは、この新聞を書いて、ぼくたちが住んでいる干拓地では、南海トラフなどの大きな地震や線状降水帯などによる水害などで大きな被害がおこるかもしれないと分りました。改めて干拓地での大規模な液状化現象、海抜が低いこととおき、防災の重要性や怖さを思い、防災のために、ある意味、役わりや知らない言葉の意味も分かるようになった。